

標 みおつくし 簿

第 8 号
2020年8月

NPO法人ベーチェット病協会
〒802-0075 北九州市小倉北区昭和町 19-10-1416 妹尾方

新理事長に妹尾耕基さん

第3回通常総会を開催



妹尾 耕基 理事長

平成三十一年度の事業報告、会計報告、令和二年度の事業計画、活動予算などが審議され、いづれも全会一致で可決承認されました。

NPO法人ベーチェット病協会の第三回通常総会が、さる六月二十七日(土)、福岡市南区高宮の城戸行政書士事務所で開催されました。総会では、議長に選出された瓜生厚子さん(飯塚市)の議事進行の元、

任期満了となる役員については、今総会をもって退任する大本律子理事長を除く理事3人、監事1人の再任が承認されたほか、新理事としてこれまで本会の会計を担当されてきた廣田

治雄さんが選出されました。

また、総会後に行われた理事会において、理事の互選により、妹尾耕基さんが新理事長に選定されました。

今総会は、新型コロナウイルスの感染拡大を考慮し、同時開催予定の医療講演会を中止したほか、書面による決議を採用して少人数による開催となりました。

(理事・柴田弘子)

◇ 《新執行部の顔ぶれ》

理事長	妹尾 耕基
理事	柴田 弘子
理事	堀本 保男
理事	廣田 治雄
監事	城戸万之助

みんなの広場

最近、友人に手入れが簡単だというぬか床を薦められたので買って

みた。まだキュウリと大根しか漬けていないが懐かしい味がする。植物性の乳酸菌が摂取できてお腹にも優しいらしい。久々に良いものを入れたと満足している。

昔はどここの家にもぬか床があり、食卓にいつ



もキュウリやナスの床漬けがあった。

母が毎晩ぬか床を混ぜるのを「くさーい」と言いながら眺めるのが好きだった。ぬか床は父方、母方の祖母の家にも

ぬか床

廣田 治雄（福岡）

それぞれあったが、どれも少しずつ味が違った。そして、不思議なもので、祖母の家のぬか床をもらってきて混ぜて漬けても結局は自分の家の味に落ち着いていくのだった。

昔は、よその家に行く

とその家の「匂い」があった。家ごとに醸し出される「匂い」のようなものが家の「匂い」やぬか床にも作用していたのかも知れない。

ぬか床は生きているので、暑い時は発酵し過ぎないように朝晩混ぜたり、寒い時は冷たいぬか床を手がしみるのを我慢しながらかき混ぜたり、雑菌が繁殖しないように塩や山椒の実を入れたりしてたびたび

面倒をみなければなら皆が忙しくなり効率を求めることが最優先の世の中になるにつれて、ぬか床は次第にそれぞれの家から姿を消していき、気づけば食卓に床漬けが上がる日が少なくなつた。

これまで当たり前に食べていたものが無くなったと分かるのが急に食べたくなるのが人情だ。ああ、床漬けが恋しいなあ、食べたいなあと思っているうちに、世の中は「ステイホーム」を合言葉に「新しい生活様式」なるものが提唱されることとなった。

これまでの暮らし方

を省みながら、今後の生き方について考える必要性が高まってきたのだと思う。そんな中でかつての暮らしについて再評価される気運も高まってきている。「新しい生活様式」の行き着く先の一つに、ぬか床のある暮らしもあるのかもしれない。

購入した現代版ぬか床は、上部がピチッと締まるポリエチレン製のスタイリッシュな袋に、キュウリ二本を漬けるのにちょうどいいくらいの量が入っている。ぬか床は購入時からいい塩梅に発酵しており、保管場所は、台所の流しの下などでなくて、『品

質を保つため』に冷蔵庫で保管するようになっている。

我が郷里の小倉では、サバやイワシを砂糖、醤油、みりんなどで煮て最後にぬか床を入れて作るぬか炊きという料理がある。亡き祖母のこしらえるぬか炊きは（山椒の実がちよつと苦手だった）とても美味しかった。

いつかあの味を再現できたらいいなあ……と目論みながら毎晩、薄暗い台所の床に座ってぬか床を混ぜている。

育てる

柴田弘子（福岡）



庭木の緑を保つため、初夏からの水やりは欠かせなくなりませす。その日、水しぶきの先に何か動くのを目の端で捉えました。雀の雛です。まだ、生きています。そ

れた羽毛をぬぐい、掌に抱いて暖め始めました。心臓の鼓動を感じると言います。小一時間も抱いていたでしょうか、この雛は生きるよと言います。それからです。巣と同じような薄暗がりの寝

みんなの広場

床を作るため、空き箱、古タオル、電気あんか、スポイトなど、家の中を走り回ってかき集めました。急ごしらえの巣を暖め、雛を包み、一時間くらいたつたでしょう。ドキドキしながらそつとタオルの奥を覗くと目が開いていました。次は、水分補給です。スポイトで一滴ずつ、口に垂らしていきます。はじめは嘴をあけてくれず、雫はタオルに吸い込まれていきます。飲んでくれないのかしら。五、六滴目に嘴をあけてくれました。やった、これで何とかなる、と思いました。

文鳥を飼っている友

人に雛の世話のポイントを教えてもらい、子育て開始です。雀は生き餌でないのだめだと言います。巣の近くに戻してやれば、親が餌を与えに来る可能性が高いとのことなので、昼間は雛が落ちていた付近に空き箱の巣をかけ、夜は家の中に入れること三日間。活発に轉り、糞もたくさんあります。

四日目に、やってきた妹に仔細をはなし、巣を見に行きました。巣を覗くとごそごそと奥に潜り込みます。それから三時間後の夕刻、家の中に入れてあげようと巣のところに行く、雛はいなくなっていました。

三泊四日の子育てでしたが、巣立ったうれしさと、寂しさを感じた初夏でした。黄色い嘴といいますが、本当にかわいらしいですね。

いません。イラストやカ
ット類も大歓迎です。
作品の送付先は、次の
通りです。

〒815・0083
福岡市南区高宮5丁目
3・9・405 城戸

行政書士事務所内 「溍
標みんなの広場」係。

おらせ

会報「溍標」では、会員の皆様からの投稿をお待ちしています。俳句、短歌、詩、エッセー、内容は問

◇ 「行政書士に聞いてみた」は休載します

【編集後記】

前理事長の大本律子さんが一身上の都合により今総会をもって退会されました。本法人の前身であるベーチェット病友の会福岡県支部時代から、明るい性格と強いリーダーシップで会を支え続けて頂きました。心よりお礼を申し上げますとともに、今後のご健勝をお祈り申し上げます。